

# SEVEN HILLS

The magazine for high net worth individuals

ワインに魅せられた投資家たち  
ホテルで時計とともに過ごす1日  
リセット&リチャージ 快眠のススメ

セブンヒルズ  
世界を舞台に活躍する  
資産家のための  
マネー&カルチャー誌

12

DECEMBER 2008 Vol.045

特集

アートコレクション  
礼讃

In praise of art  
collection





ヴラマンク 花 55cm x 46cm



ヴラマンク 馬車の通る道 65cm x 81cm



ヴラマンク 雪の村 73cm x 92cm

Column 02

# 没後50年目の邂逅 “孤”に突き進んだヴラマンク

フォーヴの旗手、モーリス・ド・ヴラマンク。多くの画家に衝撃を与えたその功績はあまりにも大きく、彼が運命を動かした一人に夭折の天才画家・佐伯祐三もいた。かつては芸術の都に憧れた、若き画学生の一人に過ぎなかった佐伯はヴラマンクに激しい言葉で突き放され、本物の表現に向かうようになる。今から76年前のフランスで、ある奇跡のような出会いがあった。

野獣と呼ばれていた画家 モーリス・ド・ヴラマンク。フォーヴィスムの代表作家として世界的な評価を受けるが、彼の真価、つまり圧倒的な写実性が発揮されたのは、自らを俗世間の縛りから完全に遠ざけた第一次世界大戦後だった。

パリの音楽教師のもとに生まれたヴラマンクは20歳の時に兵役のため入營する。配属された軍隊で、コントラスを奏でていたという。絵心が芽生え、この頃、生活のために自転車競技を行つた厳しい現実を前に、「己のみを信じる」という、自由主義

は既に固まりつつもあった。しかし、ホヤセザンヌに感銘を受け、ドランやマティスとの交友の記録からは決して孤高ではなかった若き日の姿が窺える。1914年、激化する第一次世界大戦により、国民軍に召集されるその日までは。

戦場で何があなたのかは詳しくは分かっていない。しかし終戦後、ヴラマンクは頑なまでに周囲を遠ざけ、ひとり、孤と対峙するようになる。1919年に二度目となる個展が開催されるが、この頃からいわゆる「ヴラマンクでいい」絵が描かれるようになる。



ギャラリーためなが  
**為永清嗣** ためながきよつぐ  
ギャラリーためなが  
代表取締役社長

1964年、東京生まれ。Le Rosey - ロゼー中学(スイス)、St. Paul's School-セントポール高校(アメリカ)、慶應義塾大学を卒業後、日本興業銀行入行。1991年同行を退行後渡仏。以降、パリを中心に国際美術市場で活動続ける

# 作品の価値を正しく知ること 為永清嗣

●ギャラリーためなが代表取締役社長

作品の価値を正しく知ることが、足を踏み外さない秘訣——国内外の美術市場に精通する為永清嗣氏は、専門家の立場からわかりやすく美術品購入を指南してくれる。「後世にも価値が変動しにくい作品を手に入れたのなら、国内の景気に左右されない、国際市場で通用する作

家をお勧めします。それも近年急激に評価が上昇した作家ではなく、2、30年前もそれに価格が安定していた作家であること。世界中の美術館に収蔵され、広く価値を認められた作家であること。そんな作家の作品なら、資産のポートフォリオに入れて家族に遺す美術品としても相応しいでしょう。オークションを適正価格の目安と考える認識にも、為永氏は疑問を投げかけている。「オークションの値段は、たまたまその作品を求めた人同士が正当な価格以上に思い入れがあった為に吊り上がった結果であるかもしれない。また出品者自身が高値で競り落とすことで、話題作りをすることも実際に可能です。2人いれば10万円の作品を1億円に吊り上げるのは簡単なこと。最近は無名の作家の作品を故意に吊り上げてその価値を周知の事実とした上で手元にある作品を高額で取引しようとする業者も少なくありません。しかし急激に上がった評価は、暴落する可能性もある。それを承知の上で、本当に好きな作品だけを適正価格で買うべきです」。

「美術品を自分の目で探さず、作品探しをコンサルタントに任せる方もいらっしゃいます。対照的に、以前パリで来廊されたフランスの元首相は、いくら周囲がお勧めしても自分の心に響かない作品は求めませんでした。もちろん後者が本当の美術愛好家です。美術は主観。何度も足を止めて見入ってしまうような作品との出会いが、その人らしい魅力的なコレクションを育てていきます。残念なのは、作品一つ一つは素晴らしいのに、全体として無造作なコレクション。やはり資産性に気を取られ、作品の本当の魅力を感じていない方がそんな結果に陥りますね」。基本は自分の目で心に訴えかける作品探しを楽しむこと。その上で間違った価格を払わないためと、雰囲気だけのものを良い作品と勘違いしない為に信頼の出る画商からの助言を参考にすることもひとつ。自分が本当に好きなものを知り、美に感応する心を磨く。魅力的なコレクションへの道は、急ぐべからずといったところか。

豊富なプロのアドバイスが役に立つと為永氏は語る。これは、深

刻な贋作のリスクを回避するのにも有効なのである。それではプロの目から見た理想的な美術品コレクションとはどのようなものだろうか。



佐伯祐三 オニー風景 52cm x 64cm



佐伯祐三 ヴィオス河周辺風景 52cm x 64cm

## —没後50年— ヴラマンク展 開催

今年没後50年という節目を迎える、モーリス・ド・ヴラマンクの回顧展、「没後50年-ヴラマンク展」が2008年10月20日(月)から11月9日(日)までギャラリーためなが大阪で開催される。徹底した写実と反アカデミズムの精神は、奇しくも今年没後80年という佐伯祐三にも影響を与えた。本展覧会では、併せて約30余点の作品を一堂に展覧するという。

大阪:2008年10月20日(月)~11月9日(日) 午前11時~午後8時 会期中無休  
東京:2008年12月1日(月)~12月26日(金) 午前10時~午後7時 日・祝休廊  
画廊HP: www.tamenaga.com

自分の見たもの、聞いたもの、感じたもののみを信じる。道端の雪は固くてひんやりと冷たく、ぬかるみは足を取られそうなおどろかしい。そこには何者の意見も議論も寄せ付けない。徹底した写実主義が確立されたのだ。皮肉にも、孤に固執していったの頃のヴラマンクのもとに、多くの画学生が叱責を承知に訪れるようになる。画家、佐伯祐三もその一人だった。

1924年、26歳の佐伯は先輩の里見勝蔵に連れられ、憧れていたヴラマンクを訪ねた。佐伯が持参した裸婦像を瞥するなり、ヴラマンクは大声で怒鳴った。「このアカデミックめ!」さらに追いつちをかけるように写実に関する注文が続く。「砂糖と塩を描き分ける。落ちたら首を立てて割れるような花瓶を描け。それができてこそ真実の絵だ」。佐伯は言葉もなくお辞儀して辞去するのが精一杯だったという。帰路、佐伯は里見の手を握

り、涙を流しながら言った。「ありがたう。すまなかった。何の因果か佐伯はその夜、あのゴッホが狂死した不吉な部屋で一夜を明かすことになる。孤高の境地に自ら追い立てていった彼は3年後、残された時間を知る。「30歳で死ぬ。死に物狂いで絵を描くよ」。友人が聞いたこの言葉どおり、結核が悪化し、精神も病んだ佐伯はフロレーの森で行き倒れた。30年という短すぎる人生が残したのは、ヴラマンクの

写実精神が受け継がれたスピード感溢れる傑作であった。「物質感不十分だが、いい色彩だ」、そう佐伯の絵を賞賛したヴラマンクは佐伯の死をどのよう知ったのだろうか。パリ万博などで個展を開催し、巨匠という名も聞かれるようになった晩年、しかし「自身の作品展をまるで対岸から見ているようだった」というヴラマンク本人は、ノルマンディ平原の小

を深めていたに違いない。ジュネーヴのアテネ美術館で回顧展が行われた1958年、ヴラマンクは83歳で息をひきとった。没後50年、命を削りながらキャンバスに向ったヴラマンクの傑作がギャラリーためながに展覧される。奇しくも佐伯祐三の死からも80年という節目である今年、20世紀初頭のフランスに生きた画家たちの熱気が、回顧展ではぎと交錯するはずだ。